

FCE(外国学歴・資格評価)の実践 における有益な手法・情報紹介



NIC-Japanセミナーシリーズ：
「FCE（外国学歴・資格評価）研修プログラム」
2026年7月29日

今回の発表の対象者と目的



対象者

大学の学士課程へ入学を希望する海外の
学歴・教育資格を有する志願者の出願資格
審査（以下FCE）を担当する教職員の方々です。

学習成果：以下のことが理解でき、実務に 生かせるようになる

- FCEは、何をする作業か
- FCEに必要な書類は何か
- FCE全体の作業行程（6つのステップ）
- 日本のFCEの特徴的な出願資格の条件
- 証明書の確認方法
- 海外の教育制度等の情報収集の手法

* FCEとは、Foreign Credential Evaluationの略称

「FCE」と「学力審査」の 業務内容・プロセスの違い

FCEと学力審査（入学試験）は、2つの異なる審査のプロセスであり、目的も異なります。



FCEは、最初に行わなければならない審査業務

法令で定められた最初の段階の審査業務であり、行わなければならない作業です。



FCEは、学歴・教育資格の有無を確認する審査

日本の高等教育に進学するために必要な教育資格があるか確認します。学士課程への進学の場合は、その前段階の正規教育課程（一般的には、初等・中等教育）を修了しているか確認します。



学力審査は、FCEの審査に通った後のプロセス

FCEの審査後「資格あり」と判定された場合、志願者のこれまでの成績の確認や入学試験・面接等による審査を行います。



学力審査は、身に付いた学力を判定する

志願者が当該大学の教育課程で学び、修了できるだけの基礎学力があるか判定することが目的です。



FCEと学力審査の ために必要な書類

右記の4つの情報以外にも、EJU（日本留学試験）の成績やその他の情報を教育機関ごとに提出を求めているので、それらの出願書類についても、FCEの審査において活用の有無や活用方法等を検討する必要があります。

よく出願書類に含まれる書類



教育課程修了証明書

FCE：非常に重要な書類

学力審査：成績等が記載されていない場合は、資格確認のみで学力審査の重要書類ではない



成績証明書

学力審査：基礎学力を測定するための重要な書類

FCE:教育課程の学修歴を確認するための重要な書類



語学力テストスコア

学力審査：語学力の確認には、重要な参考資料

FCE:出願要件として課されている場合は、語学力を確認するための書類



各種試験の結果

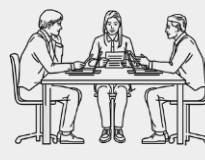
FCE：当該国政府の統一試験や国際的団体による標準化試験等がある場合は、FCEの重要な書類

学力審査：基礎学力を測定するための重要な書類



6つの基本ステップ

FCE担当者が外国学歴・資格審査を適切に行うための6つの基本ステップを紹介します。

01		ステップ1：日本政府の法令や教育プログラムごとの募集要項の内容や出願手続きの手順を十分に把握し、志願者からの問い合わせや出願時の手続きに的確に対応する
02		ステップ2：提出書類が揃っているか確認とデータ登録 必須書類がすべて揃っているか確認し、不備がある場合は、志願者に連絡します。また、FCEに必要な書類は何か確認します。
03		ステップ3：出願書類の内容に矛盾がないか確認 出願書類に記載された情報を、可能な限り、確認します。
04		ステップ4：「12年の教育課程」修了（修了見込みも含む）の確認 正規の12年目の教育課程を修了していることを証明書類で確認します。
05		ステップ5：ステップ4以外の資格について確認 志願者が、ステップ4の12年教育課程修了の資格を有しない場合のみ、その他の入学資格の要件を持っているか確認します。
06		ステップ6：学内審査チームで最終判断 大学ごとの手順に基づいて、審査チームで協議し、最終判断を下して関係者へ結果を伝達します。



ステップ1： 志願者が入学を希望する教育プログラムについて、募集要項の内容および出願手続きの手順を事前に十分に把握し、志願者の出願手続きを適切に指導する。

1

準備 1



文部科学省の「大学入学資格ガイド」の内容を把握しておく

2

準備 2



志願者が入学を希望する教育プログラムの募集要項の内容を把握しておく

3

準備 3



志願者が入学を希望する教育プログラムの出願手続きの手順を把握しておく

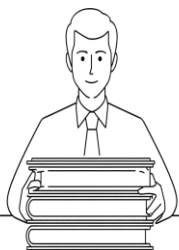
4

対応



志願者からの事前問い合わせには、的確に回答し、出願時には手続きを適切に指導する

書類の確認ステップ



1



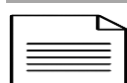
当該機関の必須書
類一覧確認

2



卒業証明書
の確認

3



成績証明書
の確認

4



書類不備の
チェック

5



追加書類の
要求対応

ステップ2 提出書類の確認とデータ登録

志願者から提出された書類がすべて揃っているかを確認し、不備がある場合は適切に対応します。

(例) 堀田のFCEのための確認リストの作成 (データ入力)

1. 本人の個人情報

- ・志願者本人の情報（特に国籍、在住歴のある国や誕生日等）
- ・中等教育課程の修了の有無
(特に、いろいろな提出書類を通して情報に一貫性があるか確認します。)

2. 出身校の情報

- ・中等教育の出身校並びに教育プログラムの政府の認可状況。修了証明書は、政府発行か、政府の公印があるか。
- ・International Schoolの場合は、WASCやACSI等の国際的評価団体の認定校か等。

3. 出願資格要件の確認

- ・12年の教育課程修了の確認
- ・国際的な教育資格（GCE-Aレベル、IB等）の確認。
- ・政府が定めた国の11年教育課程出身か等。

4. 書類の真正性

記載漏れ・署名・公印の有無など書類の不備を詳細に確認する。

(→ステップ3)

ステップ3-1

3つのタイプの不正な 証明書のチェック

* 不正に改ざん・偽造・捏造された各種証明書は、大きく分けて3つのタイプがあります。

* 証明書の真正性を100%保証することは、不可能です。そして、個別の書類の記載不備や矛盾を見つけるのは、非常に手間暇かかる作業です。

* しかし、限られた就労時間内に記載事項を可能な限りダブルチェックし、出所確認等をしなければなりません。では、「どこまでするか」という問については、それぞれの機関ごとのご判断に委ねられることになります。



志願者による記載 内容の改ざん

確認ポイント

- ・印字の不自然なズレや字体の違いを確認
- ・修正液や上書きの痕跡をチェック
- ・発行機関への直接照会を実施
- ・原本と写しの整合性を確認



Fake School (実体 のない学校) による証 明書の捏造

確認ポイント

- ・当該国の教育省公式認定リストと照合
- ・機関の設立年・所在地・連絡先を確認
- ・当該国大使館への問合せ
- ・インターネット検索で機関の実態調査



偽造プロ集団による証 明書類の偽造

確認ポイント

- ・公印・公証の真偽を発行機関に確認
- ・用紙の質感・透かし・セキュリティ印刷を検証
- ・中国のCSSDのようなオンライン照会システムの活用

教育の不正は、今や
220億ドル（3.5兆
円）の一大産業化
している

ステップ3-2

出願書類に矛盾した点がないか確認する



名前・生年月日、住所等に記載ミスがないか、異なる書類の記載に一貫性があるかなどを確認します。改ざん・偽造された書類では、このような記載ミスがたまに見られるため。



証明書はできるだけ学校・政府機関から直接送られてきたものを審査に使用します。（しかし、FCEの段階では、原本はそろわないケースもあります）



出願書類に記載された連絡先やホームページのアドレスは使用せず、自ら検索し、連絡をするか、出願書類上の情報が正しいか確認します。



特定の国や国際団体の書類の原本には、決まったセキュリティー印刷（透かし、マイクロ文字等）が施してあるので、それを確認します。

ステップ4 「12年の教育課程修了」の確認

外国の正規教育における12年目の教育課程修了を証明する書類の確認基準と審査ポイントを解説します。



1



正規教育課程の 定義確認

志願者が受けた初等・中等教育を含む当該国が定めた正規の12年教育課程とは何かを理解します。

2



証明書の 種類と確認

修了証明書・成績証明書など、12年目の教育課程修了を証明する公式書類の種類と確認方法を把握します。

3



修了証拠 書類の審査

提出された書類が正規の12年課程の修了を証明しているか、記載内容の整合性を確認します。

4



国別制度の 照合確認

各国の教育制度と照合し、提出書類が当該国の12年課程に相当するかを検証します。

5



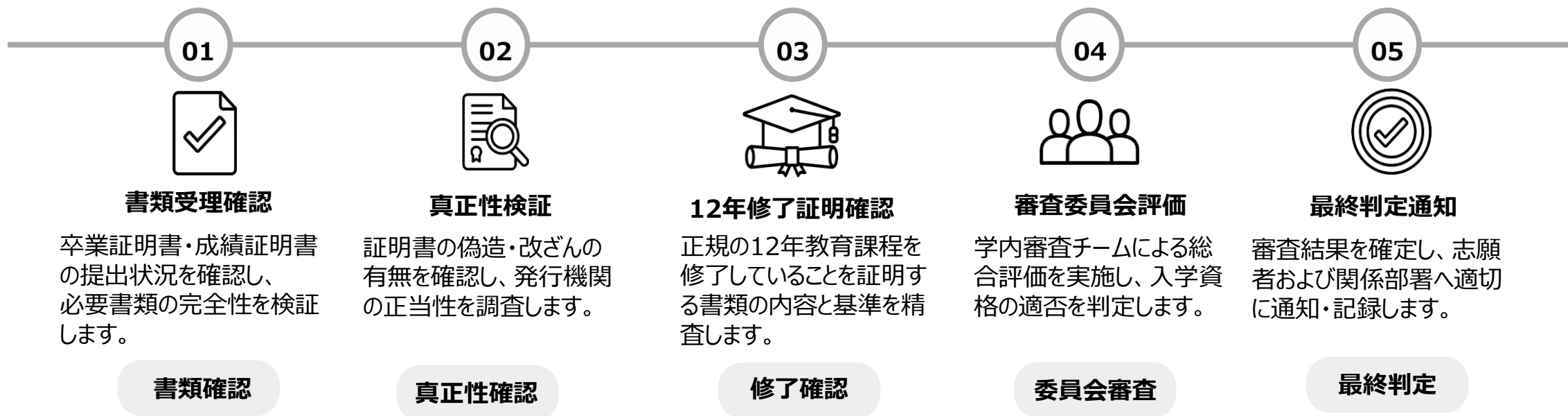
不備・疑義 への対応

書類に不備や疑義がある場合の追加確認手順と、審査委員会による個別審査の方法を確認します。



12年目の教育課程を修了した 志願者の審査フロー

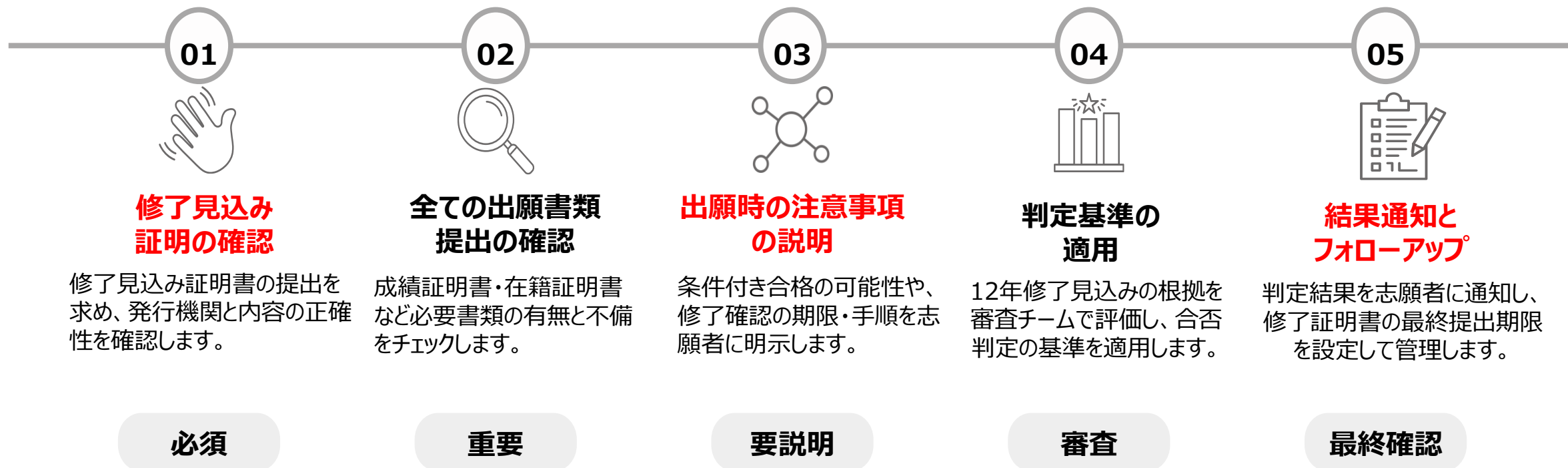
すでに12年目の正規教育課程を修了した志願者に対する
FCEの審査手順と確認ポイント。



修了見込みの志願者の審査フロー



12年目の教育課程修了見込み者を対象としたFCEの審査手順と判定基準。





修了「した」と「見込み」の比較

2つの審査パターンの証明書の種類・審査難易度・注意点を表形式で比較します。

比較項目		
対象者	12年教育課程をすでに修了した志願者	12年教育課程の修了見込みの志願者
証明書の種類	卒業証明書・成績証明書（最終学年まで）	修了見込み証明書・在学証明書
審査の難易度	比較的容易（修了実績を確認）	やや複雑（見込みの真偽確認が必要）
主な注意点	証明書の偽造・改ざんに注意	入学までに修了確認のフォローアップが必要
最終判断のタイミング	出願審査時に完結	入学までに修了確認のフォローアップが必要

ステップ5： 12年教育課程以外の 資格審査



右記は、比較的、出願の多いケースに基づいて、6つの項目について解説しました。これ以外にも特に日本国内在住の志願者に関わるいろいろな要件もありますので、「大学入学資格ガイド」の審査項目を全てご確認ください。



外国に於ける12年の課程修了相当の学力認定試験＋18歳以上

日本の「高等学校卒業程度認定試験」と同様に中等教育修了相当の学力認定試験は、米国のGEDを始め、多くの国に存在するので、その資格を認めています。



文部科学大臣が指定する11年以上の課程（8カ国）

(R6年6月現在)ウクライナ、ウズベキスタン、カザフスタン、スーダン、ベラルーシ（普通中等教育第三段階の教育）、ペルー、ミャンマー、ロシアの正規中等教育を修了していれば資格があります。



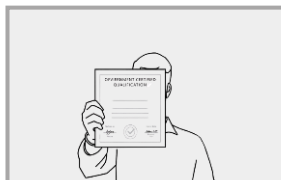
大学進学資格試験(1)国際バカロレア、アビトゥア、バカロレア、欧州バカロレア

それぞれの国、地域、また国際的に大学進学の資格を与える国家試験・国際試験が実施されているので、その合格者は、日本でも大学入学資格を与えられています。



大学進学資格試験(2):英国のGCEのAレベル、その他の国際Aレベル

英国の正規の教育課程を修了していることを証明するAQA, OCR, Pearson Edexcel, WJEC/Eduqasなどの民間の awarding bodies が実施するGCE (General Certificate of Education) AS/A Level の試験のA-levelに最低1科目（大学によって異なります）合格していると日本の大学入学資格を有することになります。また、国際A levelは、世界中の多くの学校でCambridge InternationalやPearson Edexcelが試験を実施しており、そのA-level合格者も日本の入学資格があります。



国際的認定実施団体(WASC, CIS, ACSI, NEASC, Cognia, COBIS)の認定校

世界中で開校しているインターナショナルスクールの多くは、文科大臣指定の国際的認定を実施する機関の評価を受け、認定校になっているので、修了生は、日本でも大学入学資格を有しています。



個別審査：高等学校卒業者と同等以上の学力があると認めたもの

志願者が出願した教育プログラム実施機関の公的審査委員会を立ち上げ、個別の案件について審議し、最終判断を下して関係者へ結果を伝達します。

ステップ6 学内審査チームの 編成と最終判断

最終審査の手続きは、大学等によって、異なります。審査結果をどの段階で志願者に伝えるか、検定料をどう扱うか等も、各大学等の制度に従ってください。

最終的に入学出願資格が認められた志願者は、次の段階である学力審査へ進みます。



最終的な資格審査

学内審査チーム等で書類を精査し、評価基準に基づいて合否判定を審議。



志願者への対応の検討

個々の志願者への連絡・検定料の扱い等について、手続きの最終確認と対応。



学力審査のための学内調整

判定結果を学力審査に関わる関係部署へ正式に通知し、対応を完了する。

証明書のオンライン 確認システムについて

【1】中国のCSSD

【2】インドネシアのPortal Ijazah



近年、自国の国民が学んだ教育課程の修了・成績証明の真正性をオンラインで確認できるプラットフォームを政府が設立し、運営し始めています。今回は、中国とインドネシアの事例を紹介します。他にも近隣諸国では、ネパールやインド等も開設しているようですので、適宜、詳細はNIC-Japanのサイトで紹介していきます。



修了・成績証明書の 真正性オンライン確認 システムとは

主な機能

- 当該国の学籍・成績情報の真正性を証明する照会サービスです
- 実際の確認方法は、システムによって異なります



利用時の注意点

確認事項

- 照会には志願者の氏名と国が付与したID番号が必要です
- 当該国の言語だけのシステムもある（オンライン翻訳機能等を使えば、表示の意味は、分かります）



（中国）CSSD

(Center for Student Services and Development) Ministry of Education, P.R. China

このサイトでは、中等教育・高等教育の修了証明書並びに成績証明書の真正性を確認することができます。ただしインターナショナルスクール等、政府が認可していない学校や卒業見込みの志願者の情報は、検索できません。

<https://www.chsi.com.cn/en/>
リンクは貼れないので、コピーして検索してください。



（インドネシア） Portal Ijazah

(Portal Data Induk Ijazah)

- インドネシア初等中等教育省が2024・2025年度から立ち上げたオンラインプラットフォームで、初等・中等教育の修了証明を全ての学生の国のID番号から検索できます。

<https://ijazah.pendidikan.go.id/>
(インドネシア語)

無償・有償で海外の教育制度、学校（主に大学）の情報を得ることができます。（2026年7月20日現在）

調査対象国	政府・公的機関の検索サイト	活用方法
中国（1）	CSSD (https://www.chsi.com.cn/en/) ※これは、アドレスを直接、ネットに張り付けて検索してください。	(1) 個人の資格確認 (2) 高等教育制度の紹介
中国（2）	https://www.nicjp.niad.ac.jp/foreign-system/by-country/china.html https://www.nicjp.niad.ac.jp/foreign-system/verification/index.html	NIC-Japanウェブサイト：国・地域別の情報（中国） NIC-Japanウェブサイト：外国で取得された学歴・学位の 証明書類の照会（Verification）ができる外国のサイト・ サービスサイト
ネパール	https://www.nicjp.niad.ac.jp/foreign-system/by-country/nepal.html	NIC-Japanウェブサイト：国・地域別の情報（ネパール）
ベトナム（1）	http://truyxuatvanbang.naric.edu.vn/ http://en.naric.edu.vn/recognition-of-credential-national-secondary-examination-result-of-vietnam-institutions.html	ベトナム政府機関であるVN-NARICが運営する証明書類 照会サイト（無料） VN-NARICが提供するベトナムの学歴・学位の個別認証 サービス（有料）
ベトナム（2）	https://www.nicjp.niad.ac.jp/foreign-system/by-country/vietnam.html https://www.nicjp.niad.ac.jp/foreign-system/verification/index.html	NIC-Japanウェブサイト：国・地域別の情報（ベトナム） NIC-Japanウェブサイト：外国で取得された学歴・学位の 証明書類の照会（Verification）ができる外国のサイト・ サービスサイト
スリランカ	https://www.nicjp.niad.ac.jp/foreign-system/by-country/sri-lanka.html	NIC-Japanウェブサイト：国・地域別の情報（スリランカ）

無償・有償で海外の教育制度、学校（主に大学）の情報を得ることができます。（2026年7月20日現在）

調査対象国	政府・公的機関の検索サイト	活用方法
韓国（1）	KARIC(https://www.karic.kr/ste/kar/cmm/biz/KaricUnivList.do?menuNo=2010101000&searchHeiType2=heiAll&searchProvince=provinceAll&lang=eng)	認可された高等教育機関（大学、専門大学、サイバー大学、大学院大学）のうち証明書類の照会サービスを提供する機関のリンク集
韓国（2）	https://www.nicjp.niad.ac.jp/foreign-system/by-country/rok.html https://www.nicjp.niad.ac.jp/foreign-system/verification/index.html	NIC-Japanウェブサイト：国・地域別の情報（韓国） NIC-Japanウェブサイト：外国で取得された学歴・学位の証明書類の照会（Verification）ができる外国のサイト・サービスサイト
バングラデシュ	調査中	
台湾（1）	Ministry of Education https://dcert.moe.gov.tw/about https://english.moe.gov.tw/cp-21-14441-4EC5E-1.html	台湾教育部の運営する電子証明書の照会システム 政府認定校名の確認（大学、短大等の高等教育機関の情報）
台湾（2）	https://www.nicjp.niad.ac.jp/foreign-system/by-country/taiwan.html https://www.nicjp.niad.ac.jp/foreign-system/verification/index.html	NIC-Japanウェブサイト：国・地域別の情報（台湾） NIC-Japanウェブサイト：外国で取得された学歴・学位の証明書類の照会（Verification）ができる外国のサイト・サービスサイト
インドネシア	https://www.nicjp.niad.ac.jp/foreign-system/by-country/indonesia.html	NIC-Japanウェブサイト：国・地域別の情報（インドネシア）
アメリカ合衆国	https://www.nicjp.niad.ac.jp/foreign-system/by-country/usa.html	NIC-Japanウェブサイト：国・地域別の情報（アメリカ合衆国）
モンゴル	https://www.nicjp.niad.ac.jp/foreign-system/by-country/mongolia.html	NIC-Japanウェブサイト：国・地域別の情報（モンゴル）



無償で海外の教育制度、学校（主に大学）の情報を入手することができます。

他にも**NIC-Japanのサイト**には、特定の国の教育制度に関する調査・報告書等も掲載されています。

なお、どのサイトの情報も随時のアップデートは不可能なため、提供されているデータの掲載日は、毎回、ご確認ください。

（2026年7月20日現在）



（北米）WES (World Education Services)-WENR : WESは、民間組織ですが、世界中の多くの国の教育制度について詳細な情報を提供しており、中等教育についても詳しい情報があり、有効に活用できます。

<https://wenr.wes.org/category/education-system-profiles/>



（オランダ）NUFFIC (Netherlands Universities Foundation for International Cooperation) : オランダ政府のNIC (National Information Center) で、情報は、オランダの教育資格制度との比較になっていますが、各国の教育制度についても概要が紹介されています。

<https://www.nuffic.nl/en/study-and-work-abroad/education-systems>



（国際）IAU-WHED : IAU (International Association of Universities)は、UNESCO支援の下1950年に設立された世界大学協会です。**WHED**データベースには、世界中の21,000校の政府に認可された大学の情報が掲載されています。

<https://whed.net/home.php>



（国際）APNNIC (Asia-Pacific Network of National Information Centers) :

APNNICは、UNESCOの東京規約に基づき、UNESCOバンコク事務局が支援し、13カ国に開設されたNICが各国の教育制度を紹介しているサイトです。（13カ国は、アフガニスタン、アルメニア、オーストラリア、中国、フィジー、バチカン市国、日本、モンゴル、ニュージーランド、韓国、ロシア、トルコ、カザフスタン）

<https://apnnic.net/>

有償によるFCE代行サービスの例

多くの国では、海外からの進学・雇用希望者に対し政府機関がFCEを行っています。他方で、北米諸国等では、FCEの代行サービスを提供する民間企業や団体が存在します。



ABK

アジア学生文化協会
(Asia Bunka Kyokai)

https://www.abk.or.jp/international_business_support/

日本のFCEの代行サービスを提供する部門を有する教育機関です。



Ecctis (UK-ENIC)

Ecctis: <https://ecctis.com/>

UK-ENIC: <https://www.enic.org.uk/>

英国政府のNICであるUK-ENICは、Ecctis Ltd. が運営しています。また、有償で、いろいろなFCEや世界の教育制度の情報も提供しています。



WES

World Education Services

<https://www.wes.org/>

- ・北米への留学・雇用のためのFCE代行サービスで年間40万人の申請を審査し、証明書を発行しています。
- ・多くの場合、志願者本人が\$100～250程度の費用を自己負担しています。



ECE

Educational Credential Evaluators

<https://www.ece.org/>

- ・北米への留学のためのFCE代行サービスで年間4万人程度の申請を審査し、証明書を発行しています。
- ・多くの場合、志願者本人が\$100～250程度の費用を自己負担しています。

ご清聴ありがとうございました

本日のワークショップにご参加いただき、誠にありがとうございます。
今後も、NIC-Japanのサイトを是非、ご活用ください。



<https://www.nicjp.niad.ac.jp/>



<https://www.niad.ac.jp/>

